

## モンゴル、アルタイ山脈へ②

タヴァン・ボグド国立公園の入り口からはラクダに荷物を乗せて、モンゴル最高峰である「フィティン峰」のベースキャンプまで、傾斜のなだらかな草原を約20km移動することになる。

草原には見たこともない高山植物が数種類咲き始め、周りの山々は雪をかぶり、滑走できそうな斜面がいくつも発見できた。荒野を移動した昨日とはまるで別世界だ。

大雪山国立公園のように登山道や散策路といったものはなく、地形的に歩きやすそうな場所を見つけて移動した。おそらく数十年前に大雪山国立公園を開拓した先駆者たちも、目的とする山へ向うために歩きやすそうな地形を見つけて歩いたに違いない。そういう先駆者たちの跡が今の登山道になっているのだと思うと感慨深く思ってしまう。

ここは6月、7月になるとより多くの高山植物たちが花を咲かせるようで、欧米のトレkkerたちが集まってくるらしい。道のない草原に咲き誇る高山植物と氷河で白く輝く山々に囲まれた場所に身を置き、現代社会から隔絶された環境にいることで何か原点に戻ったような清々しい気持ちとなるのだろう。

話を僕らのベースキャンプに戻すと、ラクダ



Nature Column (ネーチャーコラム)  
自然ガイドなどで活躍する人々をリレーしています。



タヴァン・ボグド国立公園内に設けたベースキャンプ(2017年5月15日)

は雪の上を歩くのが苦手、というより不可能なようで(おそらく重い荷物を載せているからだと思う)、予定していたベースキャンプより4kmほど手前にベースキャンプを設営することになってしまった。

「チャンスがあればモンゴル最高峰からの滑走を」という思いはあったのだが、僕は登山家ではなくスノーボーダーとスキーヤーだ。山頂への登頂よりも最高の滑走をする事を目的にここに来た、ということが最大の目的…ということで気持ちを入れ換え、設営したベースキャンプ周辺で滑走することとなった。(続く)

Natures代表 山ガイド 中川伸也



## 韓国・端午の節句(ユネスコ無形文化遺産の「江陵端午祭」)

東川町国際交流員(CIR)

ソン・ミンジ

陽暦の5月5日、日本では「こどもの日」として子どもたちのためのいろいろな行事が行われています。端午の節句として男子の健やかな成長を願う風習が昔からありますね。韓国でも日本と同じように、陽暦の5月5日は国の祝日「子どもの日」に指定されています。しかし日本と大きく違う所は、韓国の端午は、旧暦の5月5日に行われることです。

旧暦なので毎年日付が変わります。例年6月が多く、今年(2018年)は6月18日になります。

韓国では端午のことを「タノ」と言います。韓国には「四大名節」と呼ばれる伝統祝日があり、この端午(タノ)は、旧正月(ソルラル)、秋夕(チュソク)、寒食(ハシク)と並ぶ四大名節



の一つです。

端午(タノ)の時は、男性はシルム(韓国相撲)、女子はクネ(ブランコ)を楽しみます。女子が菖蒲の茎のかんざしをする習慣もあります。

1967年に国内の重要無形文化財第13号に指定されていた「江陵端午祭」が、2005年11月、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。国内外の観光客など約100万人余りが集まるこの祭りは、韓国の最も代表的な伝統祝祭ともいわれています。

毎年「江陵(カンヌン)」で開かれるこの祭りは、8日間行われます。今年は6月14-21日に開催されます。祭礼、端午クツ(儀式)、仮面劇、農楽、農謡など、高い芸術性を持つ多様な無形文化遺産とともに、ブランコ乗り、シルム(韓国相撲)、菖蒲を頭に巻く、

ヤマボク子餅を食べるなど、韓国歴史と独自の風俗を伝承しています。

韓国旅行といえば、外国の方に人気のあるソウルなどの都会も良いですが、このような伝統的なお祭りをご覧になるのもとても良い旅行になると思います。一度訪れてみてはいかがでしょうか。